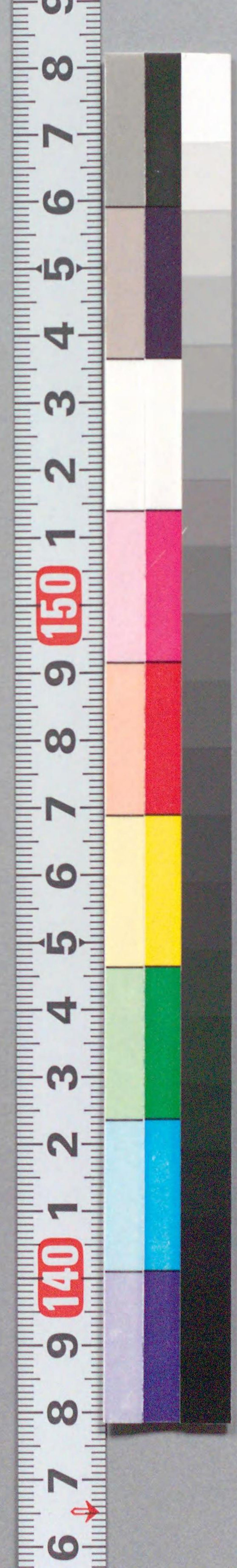


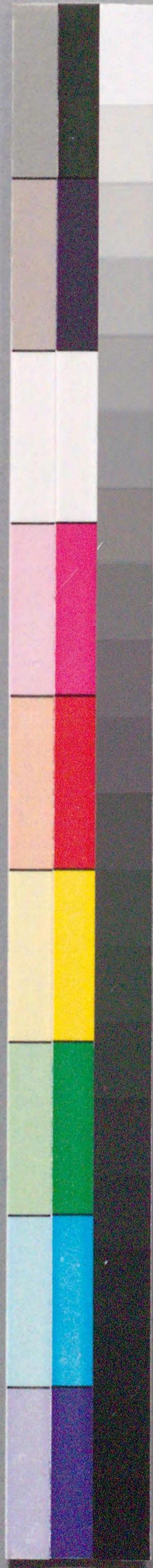
208  
581

国立国会図書館 男作三箇羅太鼓 5巻 208-581



ガラス使用





男作三箇羅太鼓  
 一  
 総州墨塗話  
 十返元作  
 歌川重九郎  
 全五冊

208  
 581



国立国会図書館 男作三箇羅太鼓 5巻 208-581

ガラス使用



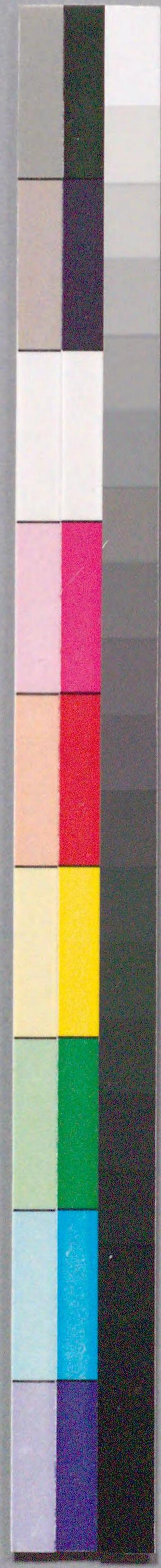


自序

孝も公我より出されを救ふて忠も心我より出され  
 全くは故小義を結道よ進みく名が汚るは悪を  
 なきん生か慮り死を尋ねりての事義も因り化の事  
 小義。ちくくは往古の侠客といつるものそれそれなりて  
 名を得てて稍くは遠隔上総と常陸の  
 名を得てて名をよむ双上のり。其の衆家より出く  
 劍術を咄目と示術は術人々。白刃の中を怖しと人を  
 救ひのる水火の難を厭ふて我を磨り男を多ると  
 せしむる世は語平総中少任びては侍人々をのり  
 するに誌しはるるの事なり。



十返舎一九識





筑波茂右衛門傳



筑波茂右衛門を常列筑波山の樺の商家何れかのあはじなり生  
質猛威根戻りく柔弱うれくみまきくひ平せ長を令後か  
知として守り人の為身命大惜まを生涯おれをとるさしそ  
ころ先狐とて佳月の肩に能より強きを妖怪ありしも茂右衛門これ  
を捕まけりしよりそのおらよくは方ふひぶたより

唐金茂右衛門傳



上総の團末金の遠小唐を茂右衛門といふ者のり資性勇壯と  
あふも慈悲の心なく又義氣強く逆らふは討順するを助くることあは  
せりといふ或者我とて幽霊のすかふかしの茂右衛門を捕まけりし  
却て捕まはれしは唐文なりし其の罪状淫言とてこの人の語る事  
を述より唐文よりいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

唐金  
茂右衛門





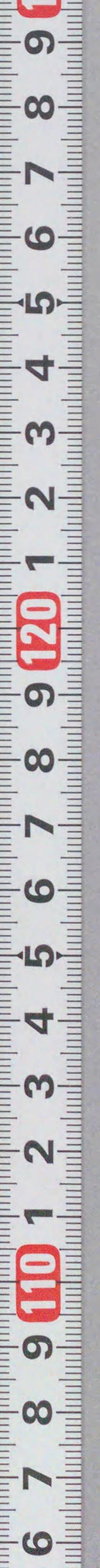
荒五郎平傳



荒五郎平を徳川源氏の浪士牛梨田五六といふれり  
 伴多丸荒五郎といふ幼雅の村父母ふおられ唐金茂吉門  
 不随員一武術力豊次使入後平と改名せをみね人  
 荒五郎の平とよびて男としての名遠近ふかすといふ

○ 総別墨塗之話

むかしより上下の総團を恨りて暮せぬといふことありそ  
 りとの家もあれ娘大い入一よりそと兄の妻のしをひあ  
 その雨のころたのいもあつて何氣なれたの事ゆいそつ  
 さつらら油をえきまは娘のうあまそこねること成なると  
 いた予とせ地中控行し早のあつて足所をとりさすてけ  
 遊まじりのことあてありらん或家も新娘いえりの  
 正月ふひとあつてつたさこのいものさひまりて新  
 のこもいりの娘とりのまね打うさつたつたかか娘を例のさみ  
 ねりもあつたのいもあつておちひらん納戸からねく出あつた  
 ひまよりうらひえれれまあつたそのまあつていなるはを  
 ゆはしてらまのまんといりの灘子ふもあつていなるはを  
 のいもあつてそのまあつてあつたやいなあつたあつた  
 のいもあつてそのまあつてあつたあつたあつたあつた















6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

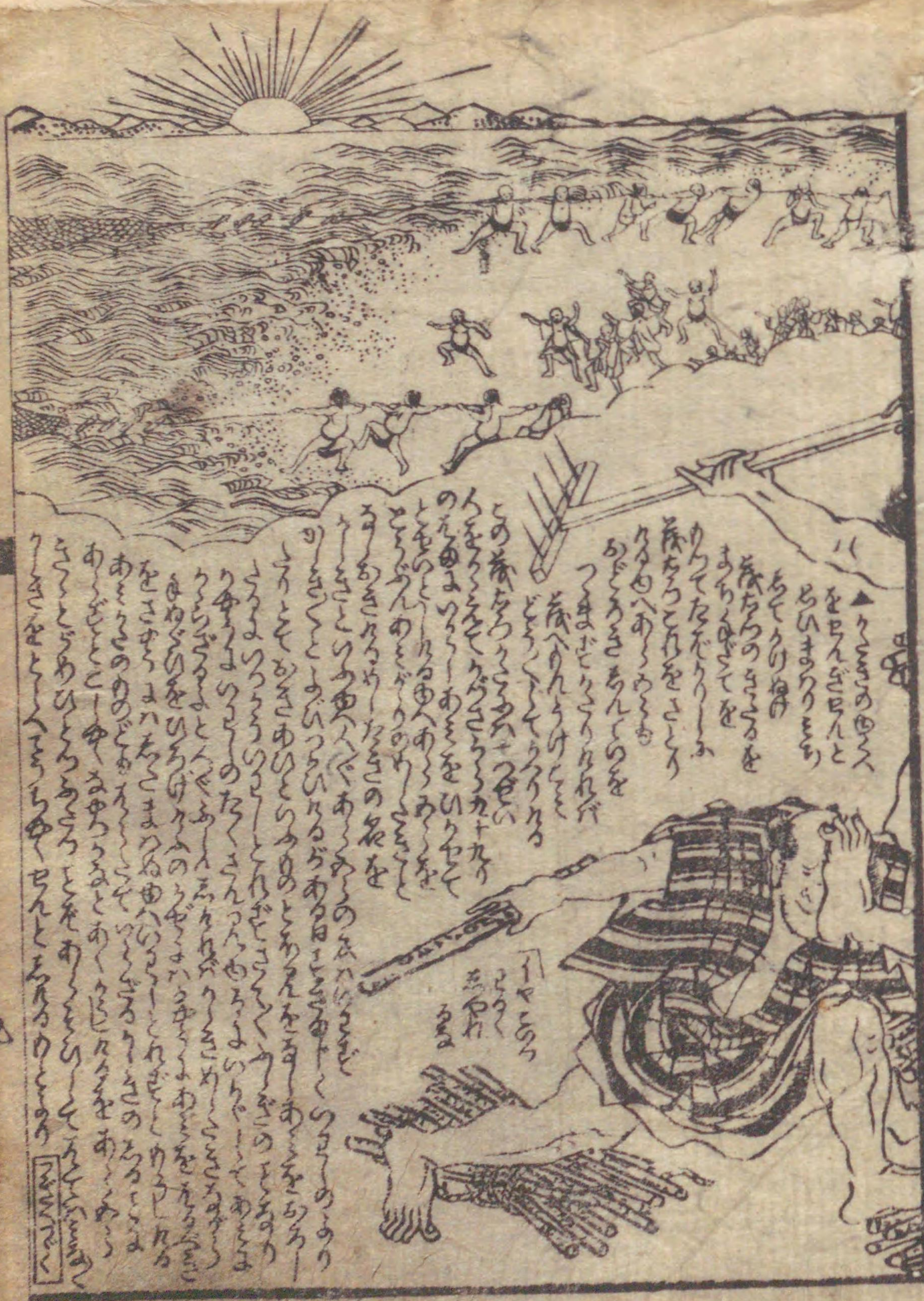














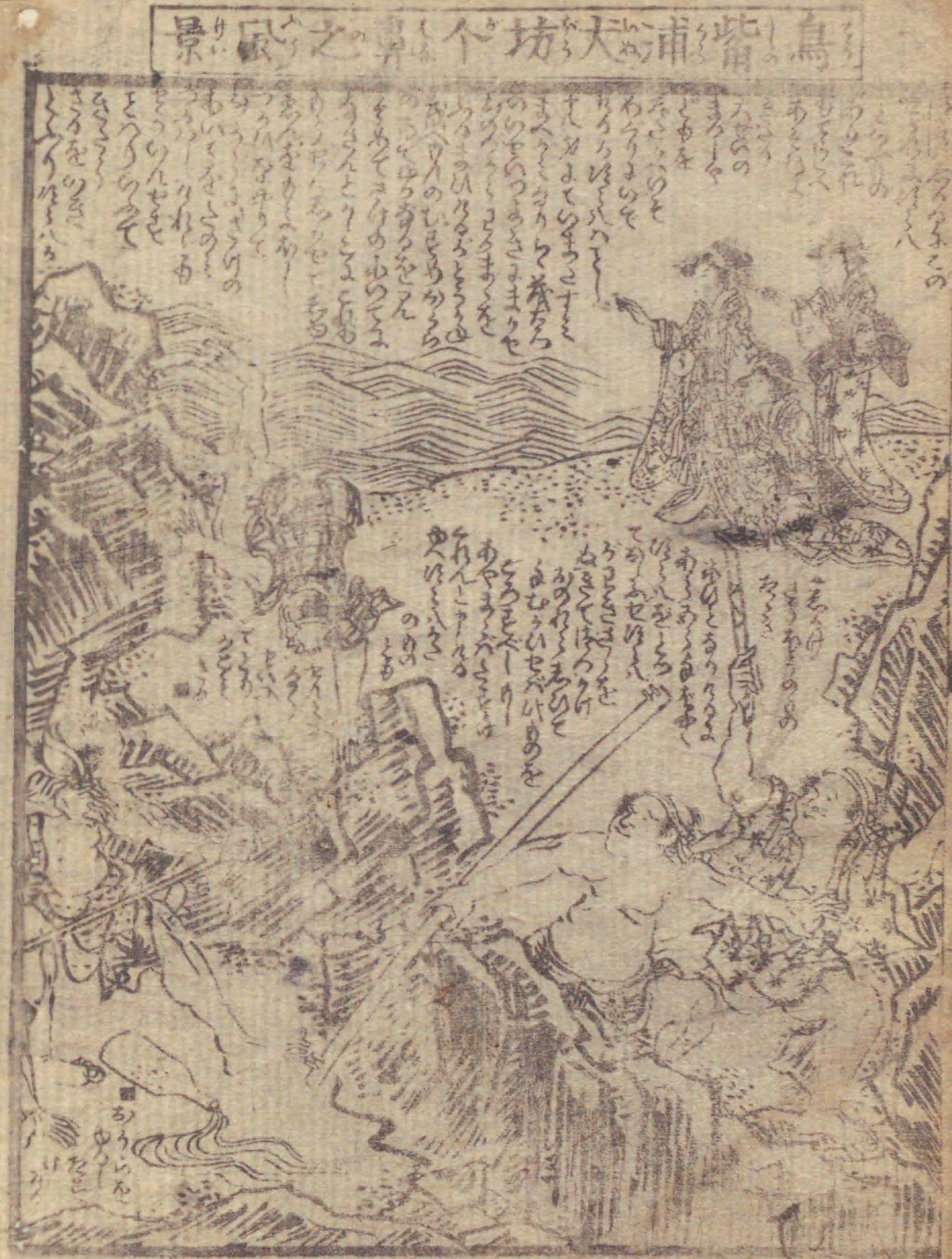


6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9



















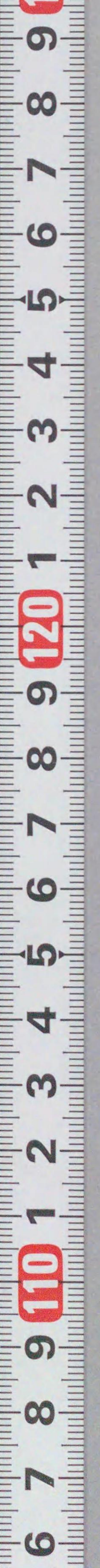


6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9









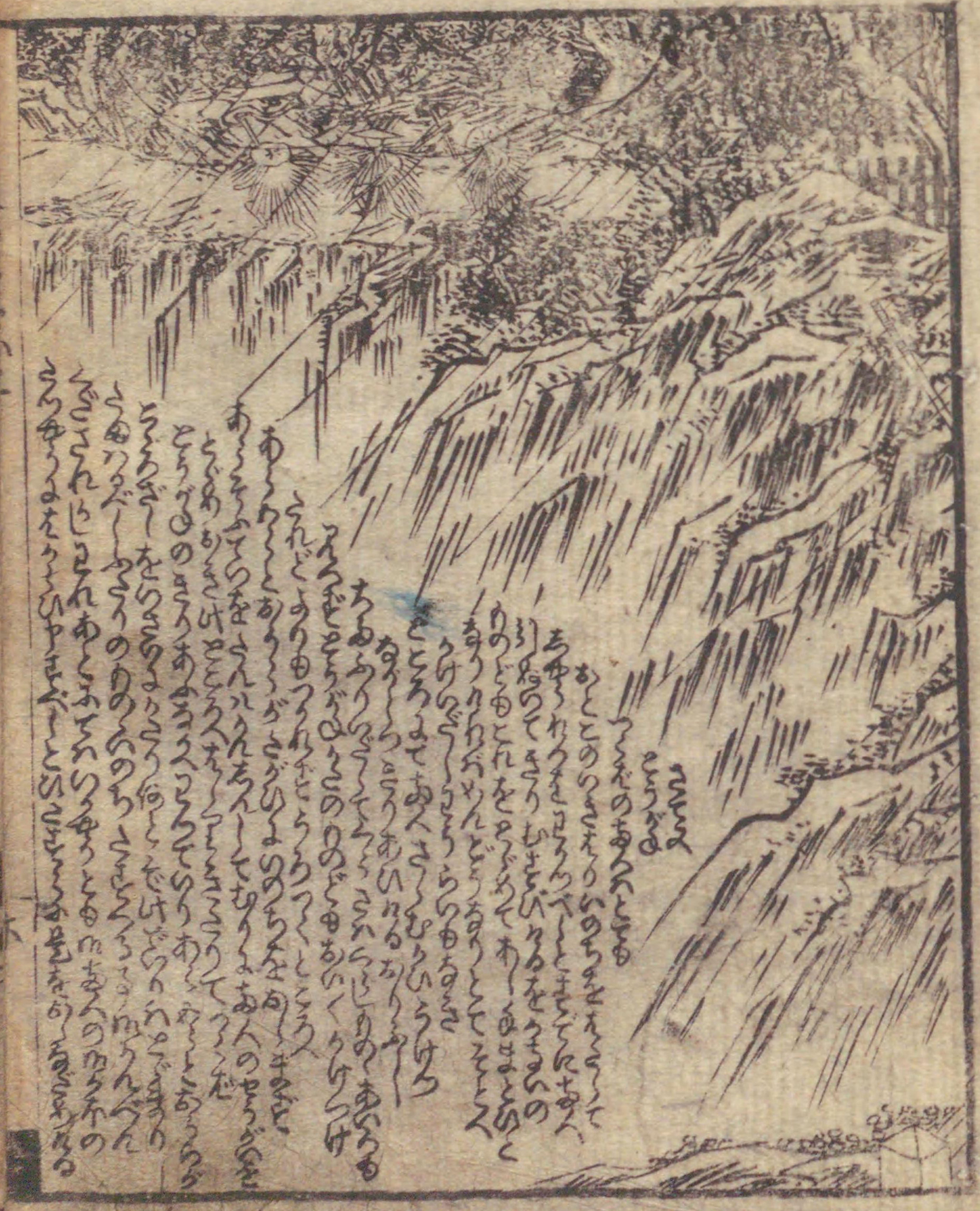












Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a chapter heading or a descriptive passage. The characters are small and densely packed. The text includes the characters '三箇' (San-kan) and '羅太鼓' (Rotaiko), which correspond to the book's title.



























永壽堂版

文化七庚午正月吉辰

町方編三まら出来まき物  
 有るまは何くして作りも  
 ありんか物も後のはき希なり

竹梅史を三箇羅太鼓と命するは三箇の  
 使士を表し又板元の印を象るは板元の  
 どんぐり賣ん子を祝してありんか作者  
 は方鼓の厚皮ありて天売り無体は  
 附會しんと重王極元は太鼓をくして  
 勸さるるを強ふるが腹を太鼓の如く膨ふ  
 至り世上の欲より太鼓のぶちのあがり  
 三巴のらると金まりりよき御評判  
 行かひもくちちりあり

圓 国

十返舎一九著

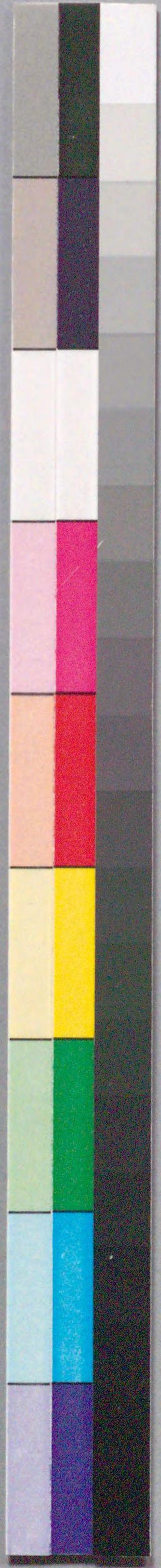
歌川國満画



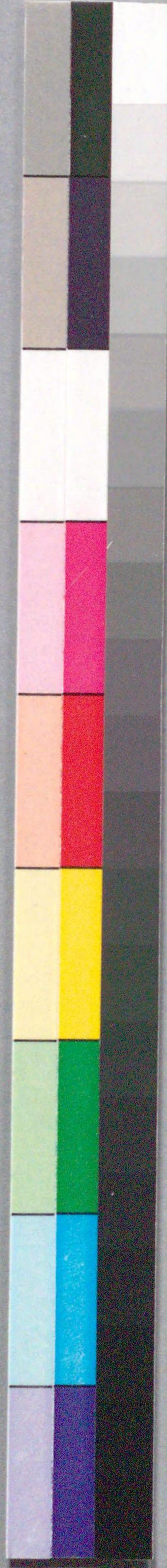
208  
581

国立国会図書館 男作三箇羅太鼓 5巻 208-581

ガラス使用







国立国会図書館 男作三箇羅太鼓 5巻 208-581



ガラス使用

